

☆主の降誕[日中](12月25日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読（イザヤの預言 52 章 7-10 節）

いかに美しいことか

山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。

彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え

救いを告げ あなたの神は王となられた、と

シオンに向かって呼ばれる。

その声に、あなたの見張りは声をあげ

皆共に、喜び歌う。

彼らは目の当たりに見る

主がシオンに帰られるのを。

歓声をあげ、共に喜び歌え、エルサレムの廃虚よ。

主はその民を慰め、エルサレムを贖われた。

主は聖なる御腕の力を

国々の民の目にあらわにされた。

地の果てまで、すべての人が

わたしたちの神の救いを仰ぐ。

答唱詩編（詩編98）

遠く地の果てまで すべてのものが神の救いを見た。

新しい歌を神に歌え。神は不思議なわざを行われた。

神の偉大な右の手、そのとうとい腕は救いの力。

神は救いを示し、諸国の民に正義を現わされた。

いつくしみとまことをもって、イスラエルに心を留められる。

世界よ、神に向かって喜びの声をあげ、賛美の歌で神をほめよ。

たて琴をかなでて、神をたたえ、その調べに合わせてほめ歌え。

第二朗読（ヘブライ人への手紙 1章1～6節）

神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。御子は、天使たちより優れた者となりました。天使たちの名より優れた名を受け継がれたからです。いったい神は、かつて天使のだれに、「あなたはわたしの子、わたしは今日、あなたを産んだ」と言われ、更にまた、わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる」と言われたでしょうか。更にまた、神はその長子をこの世界に送るとき、神の天使たちは皆、彼を礼拝せよ」と言われました。

福音朗読（ヨハネによる福音書 1章 1～18節）

初めに言があつた。言^{ことば}は神と共にあつた。言は神であつた。この言は、初めに神と共にあつた。万物は言によって成つた。成つたもので、言によらずに成つたものは何一つなかつた。言の内に命があつた。命は人間を照らす光であつた。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかつた。神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。彼は光ではなく、光について証しをするために来た。

その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。言は世にあつた。世は言によって成つたが、世は言を認めなかつた。言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかつた。しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。ヨハネは、この方について証しをし、声を張り上げて言った。「『わたしの後から来られる方は、わたしより優れている。わたしよりも先におられたからである』とわたしが言ったのは、この方のことである。」わたしたちは皆、この方の満ちあふれる豊かさの中から、恵みの上に、更に恵みを受けた。律法はモーセを通して与えられたが、恵みと真理はイエス・キリストを通して現れたからである。いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

イエス様の誕生おめでとうございます。この日は神が私たちに下さった最高の贈り物です。恭しくいただきましょう。そして、神のみ旨に副った生活、行動ができますように祈りましょう。

今日のメッセージは「言葉」です。良い知らせを伝える人の足は何と尊いことかとイザヤは叫びます。また福音記者ヨハネはこの世界が「言葉・つまり神のみ言葉」であるイエス・キリストによって造られたと伝えています。喜ばしい良い知らせは言葉によって私たちに伝えられたのです。

第一朗読（イザヤの預言 52章 7-10節）

「走る走る伝令の兵士は走る。この勝利の良い知らせをアテネの人々に早一刻も早く知らせるために」。これはオリンピックのマラソンの起源となった話です。今日読まれるイザヤ書はエルサレムに住む人々に救いの神が現れることを告げようと走る預言者、その姿を描いています。人類開闢以来の出来事が行われようとしているのだと。この良い知らせを私たちはどのように受け止めようとしているのでしょうか。私たちにとってこの良い知らせが本当に必要だと心から感じているのでしょうか。「まあありがたいことだね。そこまで困っちゃいないけどね。もらえる物はもらっとくよ」という程度ではないで

しょうか。神が私たちに下さるのはそんな程度ではないのです。全能の神ご自身を私たちに与えてくださるということ、こんなに素晴らしいことを捨て去ることほど勿体に事はないでしょう。

答唱詩編（詩編98）

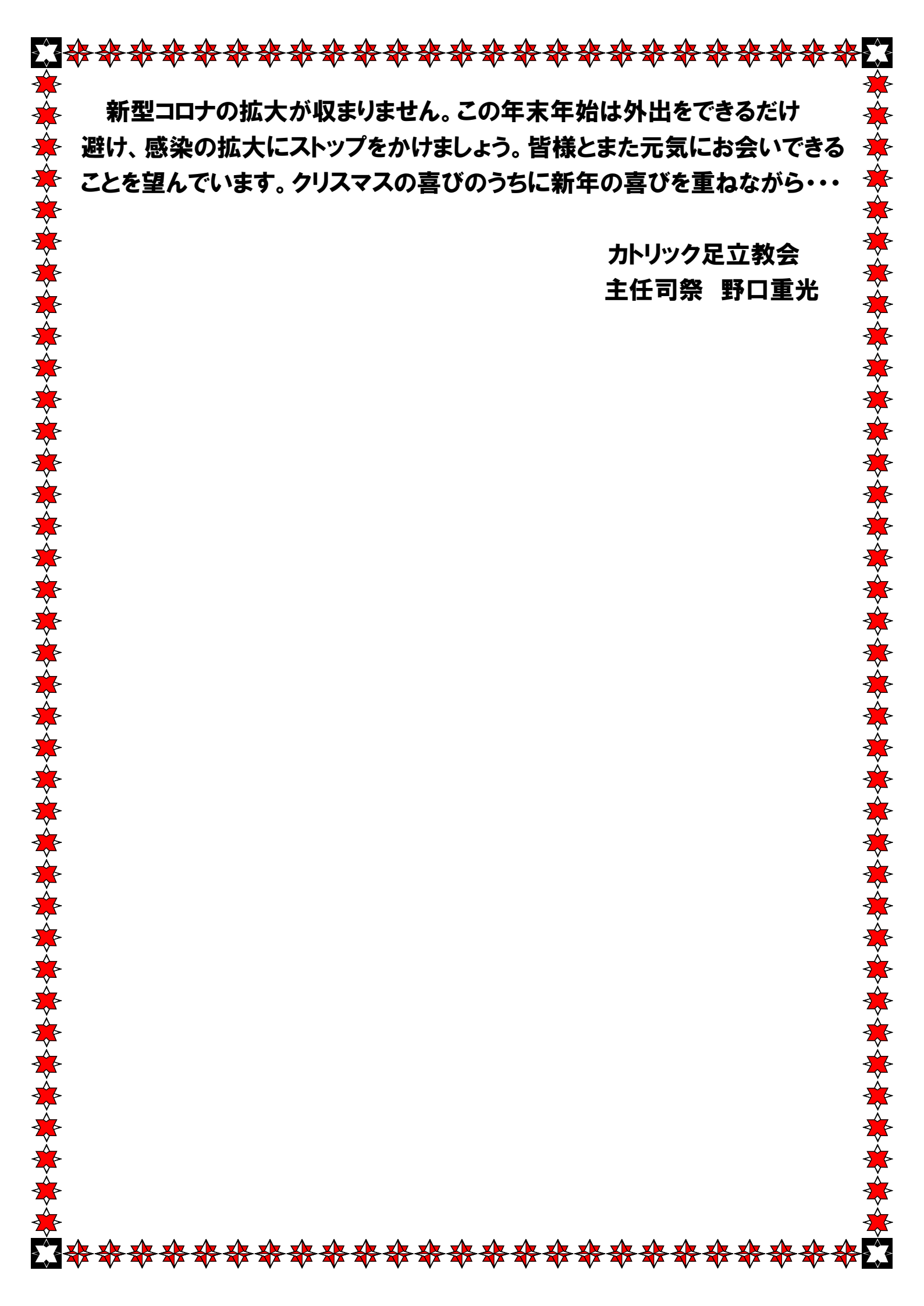
神の不思議な御業をほめたたえよと歌います。牧場にいる羊飼いたちに現れた天使たちが喜びのうちに歌ったように。そして全世界もその賛美にあわせて歌うように呼び掛けるのです。

第二朗読（ヘブライ人への手紙 1章1～6節）

この手紙は旧約の預言者たちの預言がイエス・キリストによって実現したのだと高らかに宣言しています。そしてこの現れは神の本質そのものだとも述べています。神は片手間にこの救いの御業を起こされたのではなく、この救いの御業こそ神の本質なのだと言っているのです。天使たちの存在をはるかに超えて、神は人となられたのです。それほどに神は被造物である人間を愛しておられるのです。

福音朗読（ヨハネによる福音書 1章 1～18節）

ヨハネはこの福音の読者に創世記を思い起こすよう呼び掛けています。父である神の現れである言葉である御子。その御子が私たちの歴史の中に現れてこられたことを当時の人々は誰一人として知らなかったのです。旧約聖書には神が人々とともにいる印として「神の幕屋」がりましたが、今やそのような形ではなく私たちと同じ肉体をもって私たちにそばに来られたのです。そして「恵みと真理はイエス・キリストを通して現れた」と言っています。イエスによって神である方がどのような方かが明らかになったからです。今日、救いの神イエスがお生まれになりました。私たちはこのイエスを知ることによって神を知ることになるのです。今日から始まる典礼の一年を通してイエスを知ること、父である神を知ること努めましょう。神のすばらしさを知らない限り、よい便り・福音のすばらしさは分からないからです。



新型コロナの拡大が収まりません。この年末年始は外出をできるだけ
避け、感染の拡大にストップをかけましょう。皆様とまた元気にお会いできる
ことを望んでいます。クリスマスの喜びのうちに新年の喜びを重ねながら…

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光